

たじみん昼話 119

本質を見極めてから真似よう

トヨタは米国の自動車会社を、宅急便は牛井チェーンを真似て現在の地位を創造し確立している。したがって模倣は創造の母と言えよう。

模倣において重要なのは、ただ真似てコピーすることではなく、お手本の本質を見抜き、その本質を創造的に生かす仕組みを抽出することだ。

手本の選択において、簡単に模倣できそうなものを選ぶことは避けた方がよい。一見簡単そうに見えるものほど本質を見抜くことが困難な場合が多く、失敗したときのダメージが大きいからだ。

人間のサガとして、「簡単」と捉えた瞬間から集中力が欠けた努力しか出来なくなることが多い。これはいつかできるはずと無駄で見当違いな労力の継続と蓄積を進める。しかし簡単という思い込みが強いほど、本質を捉えきれない状態が継続するほど強い焦りを生み出す。そして気が付いた時には回復不可能な心理的ダメージを負うことになるからだ。

例えば、多治見高校の教育がその一例だろう。この教育の本質は、生徒に気づかせることを通して学ぶ力をつけることだ。シンプルであるが故に模倣は容易に見えるだろう。しかし背景にはこの本質を具現するための様々な仕掛けが教育プログラムや各教科のカリキュラムに複雑に組み込まれているのだ。例えば、単元別に各教科の学習内容はリンクされていることや、その結合部に適合した図書を適切に配置してカリキュラムに柔軟性をつけていることだ。ちなみに、このネットワークにおける図書は、本校の図書館司書が、日頃の観察から得た生徒の実情を考慮して厳選したものだ。この工夫により、このネットワークは受験を克服することではなく、学びを深めるために教育内容の最適化を図っているのだ。

さらにこのネットワークは、脳細胞と同様に常にチェックされ、新たな結合や、消去(効果がないと判断すれば刈込により)によるスクラップ&ビルドを繰り返して、その瞬間の生徒に適合したものに修正されているのだ。これは、スモールステップで学力を伸長するという目的も果たすためだ。したがって生徒は、このシステムを柔軟に活用することで、各自の進路希望や将来の目標に合わせた価値観を構築することが可能になるのだ。

したがって、この全てを理解した上で、この教育哲学と教育システムを模倣しなければ、強固な教育システムを構築することはできないのだ。

県内外から問い合わせをいただく。部分的に模倣するのは容易だろうが、前述したシステムを一貫して実行し、このネットワークを修正し続けることは困難を極めるだろう。さらに、多治見高校の生徒が行っている、教えられずに自分の

間違いを自分で見つけることも、高い能力が必要であり、ましてやそれを自ら気づかせることは、至難の業であると考えからだ。

したがって、簡単には模倣できないとききょうは考えるのだ。

受験業界では様々な成功例を紹介している。しかし、それを安易に真似ることはお薦めしない。理由は前述したとおりだ。まずはじっくり本質を理解してから、自分流にアレンジして模倣することをお勧めする。